

平成21年度(第1回)広島県道徳教育研究協議会

報告(学校の取組み・授業のポイント)  
**「自律的に考えて行動し、  
 主体的に未来を拓く人間の育成」**

最大の努力を。最高の感動を。

**尾道市立久保中学校**

**「報告」**(学校の取組み・授業のポイント)

- 『久保中教育』の概要
- “久保中style”道徳教育実践研究の歩み
  - 道徳教育推進教師を中心とした推進体制
  - 久保中学校道徳教育推進講座
  - 「道徳の時間」の授業改善
  - 「総合単元的な道徳学習」の推進
- 「公開授業」のポイント

**1 『久保中教育』の概要**

【平成18年度までの課題】

- 基本的な生活習慣の未確立
- 規範意識の低下
- 問題行動や不登校

↓

積極的生徒指導への転換

↓

【平成19年度～】  
 生徒の内面に根ざした  
**『道徳教育』の充実**

**1 『久保中教育』の概要**

【『久保中教育』めざす生徒像】  
 「できた」を得ようと努力する生徒

↓

【研究主題】  
 自律的に考えて行動し、主体的に未来を拓く人間の育成  
 -「道徳教育推進体制の充実」と「豊かな心をほぐす学びの創造」-

↓

「常に前向きな姿勢で未来に夢や目標を持ち、自主的に考え、  
 自律的に判断し、決断したことは積極的にしかも誠実に実行し、  
 その結果について責任をとることができる人間」  
 【生徒指導推進の視点:「自己指導能力」】

↓

【道徳教育でめざす生徒の姿】  
 よりよい生き方を求めて懸命に努力する生徒

**2 “久保中style”=道徳教育実践研究の歩み=**

(1)道徳教育推進教師を中心とした推進体制

研究主任 道徳教育推進教師

↓

道徳教育推進委員会

校長、教頭、道徳教育推進教師、  
 生徒指導主事、各学年道徳教育推進委員

↓

教務部 生徒指導部

↓

各がな学級推進部

既存の校務運営組織の活用と機能化

**2 “久保中style”=道徳教育実践研究の歩み=**

(1)道徳教育推進教師を中心とした推進体制

道徳教育推進教師として心掛けたい“5つの「気」”

元気 やる気 根気 その気

生徒と教師が共に考え、共に『本気』で探究していく姿勢

## 2 “久保中style” = 道徳教育実践研究の歩み =

### (2) 久保中学校道徳教育推進講座

ねらいの共有化

授業づくり「基礎・基本」

教育活動全体で行う道徳教育

新学習指導要領の趣旨の理解





「授業力」の向上・「教師力」の強化

情報発信（公開）による成果の普及

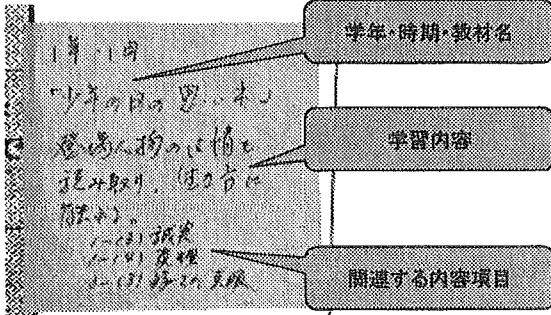
## 全教師が協力して創る道徳教育

### 「全体計画」等 作成の手順

- ①教科ごとに、別紙「全体計画」を付箋紙に作成する。（内容・時期・内容項目）
- ②拡大した「全体計画」に付箋紙を貼っていく。（その後、学年ごとに総合的な学習の時間・特別活動の協議。）
- ③「全体計画」（案）の完成。

## 全教師が協力して創る道徳教育



学年・時期・教材名

学習内容

関連する内容項目

## 全教師が協力して創る道徳教育

表2-1 授業計画表（例：学年）

学年	各教科	総合的な学習の時間	特別活動
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

道徳の時間を要とした「指導の内容及び時期」の明示

## 2 “久保中style” = 道徳教育実践研究の歩み =

### (3) 「道徳の時間」の授業改善



学び合い 響き合う

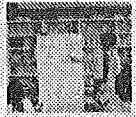

授業をめざして

### 【授業改善の視点】

生徒の思考を深める「発問の工夫」とじっくり考える「場の設定」

- ①道徳授業づくりの「基礎・基本」を身に付ける（履修＋演習）
- ②学習指導案作成・検討（学年会⇔道徳教育推進委員会）
- ③授業研究・協議会（ワークショップ型＋講師からの指導助言）

道徳の時間の指導の充実


### 「学習指導案」の統一 (様式の提示)

「授業評価表」を基にした  
研究協議

### ワークシート「授業評価」の継続的な実施と活用

「アンケートを使いますか？」  
Yes No

項目	評価	回数	割合	
先生の授業が面白かった	4	3	2	1
自分の考えや質問が、先生からよく聞かされた	4	3	2	1
授業がよかったです	4	3	2	1

「指導」と「資料」の有効性  
→客観的(継続的)な把握

授業改善・指導計画の見直し

## 2 “久保中style”=道徳教育実践研究の歩み=

### (3)「道徳の時間」の授業改善

平成21年度「道徳の時間」授業記録

日	時	内容	感想
10/28	11:00-11:45	道徳の時間	...
10/29	11:00-11:45	道徳の時間	...
10/30	11:00-11:45	道徳の時間	...
10/31	11:00-11:45	道徳の時間	...

## 2 “久保中style”=道徳教育実践研究の歩み=

### (4)「総合単元的な道徳学習」の推進

「道徳教育は、道徳的実践力と道徳的実践の指導が相互に響きあって、生徒一人一人の道徳性を高めていくものでなければならない。」  
(中学校学芸指導員協議 道徳編(平成20年9月))

「総合単元的な道徳学習」  
道徳学習プログラムの開発

## 3 「公開授業」のポイント

【研究主題】  
自律的に考えて行動し、主体的に未来を拓く人間の育成  
-「道徳教育推進体制の充実」と「豊かな学びの創造」-

【“久保中style”授業改善の視点】  
生徒の思考を深める「発問の工夫」とじっくり考える「場の設定」  
-「学び合い 響き合う授業」をめざして-

【討議の柱】  
生徒が主体的に考える「発問」と「手立て」は有効であったか。

## 3 「公開授業」のポイント(1年)

【主題名】人間愛 2-(2)  
【資料名】  
「M7.3 子どもたちが見たもの」  
【ねらい】  
阪神淡路大震災後、復興を成し遂げた神戸の人たちの姿から、互いに支え合う大切さに気づき、他の人々と助け合おうとする道徳的心情を育てる。

【ポイント】資料提示の工夫・話し合い

### 3 「公開授業」のポイント(2年)

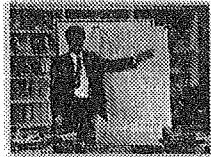


【主題名】家族愛 4-(6)

【資料名】「一冊のノート」

【ねらい】

「一冊のノート」を見て、だまって祖母と並んで草をとる「ぼく」の心について考え、家族のかけがえなさに気づき、その一員としてかわり合っていこうとする道徳的実践意欲を育てる。



【ポイント】展開構成の工夫

### 3 「公開授業」のポイント(3年)



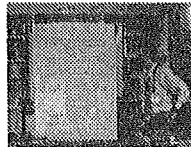
【主題名】試練が育てる友情

2-(2)

【資料名】「ライバル」

【ねらい】

真の友情や友の尊さを理解することを通して、信頼と敬愛の念に支えられた友人関係を築こうとする道徳的心情を育てる。



【ポイント】葛藤・共感させる工夫

平成21年度(第1回)広島県道徳教育研究協議会

報告(学校の取組み・授業のポイント)

「自律的に考えて行動し、  
主体的に未来を拓く人間の育成」

最大の努力を。最高の感動を。

 尾道市立久保中学校

# ●平成21年度『久保中教育』学校経営構想・教育研究構想



— 尾道教育さくらプラン2 「夢と志を抱く子どもの育成」—  
 ①授業力の向上 ②ふるさと意識の醸成 ③不登校への対応の充実 ④教育研究力の向上

◇ミッション：「行きたい学校，行かせたい学校づくり」

◇ビジョン：「感動ある学びの場となる学校」「努力を惜しまない生徒が集う学校」「『できる』を体験させることのできる教師が鍛える学校」



— 学校教育目標 —

確かな学力を身につけ，心豊かでたくましく主体的に生きる生徒の育成

=めざす生徒像=

「できた」を得ようと努力する生徒

=めざす教師像=

喜びを引き出す教師

— 本年度の重点目標 —

- 1 ルールの徹底 マナーの向上
- 2 積極的生徒指導推進
- 3 学ぶ場 学ぶ時の充実
- 4 小中連携の充実 地域連携の推進

=めざす学校像=

「できた」が実感できる学校

=めざす授業像=

学び合い響き合う授業

【研究主題】

## 自律的に考えて行動し，主体的に未来を拓く人間の育成

— 「道徳教育推進体制の充実」と「豊かな心をはぐくむ学びの創造」 —

### 道徳教育推進体制の充実

- ①校長の方針の下に，道徳教育推進教師を中心とした道徳教育推進体制の確立
  - 「道徳教育推進委員会」の設置
  - 「道徳教育推進講座」の継続的実施
- ②校長の方針の下に，生徒指導主事を中心とした生徒指導・教育相談体制の確立
  - 「生徒指導委員会」（積極的生徒指導）
  - 「教育相談委員会」（不登校チーム支援）
- ③関係機関との定期的な連携
  - 小学校との連携（生徒指導主事の派遣交流，小中合同研修会の実施）
  - 尾道教育研究会合同研修会
- ④道徳の時間と各教科等との関連を明確にした教育課程
  - 「道徳学習プログラム」の作成

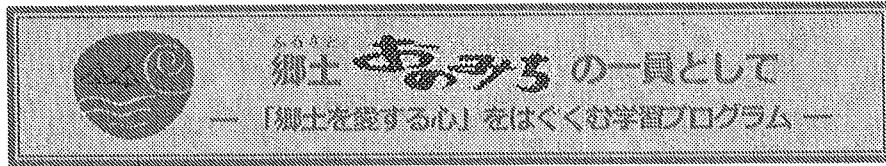
### 豊かな心をはぐくむ学びの創造

- ①「道徳の時間」の充実
  - ・心に響く資料の精選
  - ・心を揺さぶる指導方法工夫改善
  - ・「心のノート」の活用
  - ・「総合単元的な道徳学習」の実践
- ②感動体験の充実
  - ・体育大会，芸術発表会，修学旅行
  - ・生徒会活動（キャンパス），地域貢献活動等）
- ③指導方法工夫改善
  - ・T T (T2:生徒指導主事)による道徳授業
  - ・少人数，習熟度別指導による教科指導
- ④家庭・地域社会との連携
  - ・学校，家庭，地域が一体となった地域貢献活動（おのみち心の元気ワーク）
  - ・心の元気通信「響」の発行

を、**社会をたくましく生きる力**を育もう







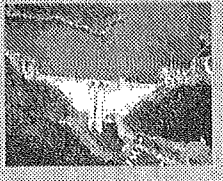
1 実施学年及び期間 第2学年（修学旅行を中心とした3ヶ月間、本校の場合1月～3月）

2 期待する生徒の姿

- ・尾道の文化や伝統に触れ、多くの人とかかわり、郷土“おのみち”の一員としての自覚が持てる。
- ・郷土“おのみち”を愛し大切に、自分自身が郷土に対して何をすべきか、何ができるかを考え、行動することができる。



3 構 想 図

時期	教科・特別活動 総合的な学習の時間	道徳の時間	常時活動 家庭との連携	生徒の意識の流れ
1月	<p>①総合的な学習の時間 「郷土尾道をPRしよう」 尾道の観光物産展を企画・開催することを通して、郷土意識を醸成し、各教科等で身に付けた知識や技能等を活用し、社会人として生き抜くための資質・能力を育てる。</p>	<p>②道徳の時間 郷土意識を高める4-(8) 「木没した駅」 郷土意識を高め、郷土を愛し、大切にすることを育てる。</p> 	<p>○家庭 学年だよりで、生徒の学校での様子や生活ノートに綴られた生徒の気持ちを家族へ知らせる。</p> <p>○家庭 「業務報告会」（授業参観）で、これまでの取り組みをまとめて保護者に報告する。</p> <p>○学級活動 「生活ノート」 毎日の出来事や、自分の思いや考えを簡潔にまとめて記録する。</p> <p>○学年朝会 「1分間スピーチ」 1分間で、自分の思いや考えをまとめ、聴き手に分かりやすいように伝える。仲間の発表の要旨を捉え、しっかりと聴く。</p>	<p>1 今尾道に住んでいるし、「郷土“おのみち”」と言われてもピンと来ないな。</p>  <p>2 調べてみると、尾道って、色んな特産品があるんだな。</p> 
2月	<p>③特別活動 「修学旅行」</p> <p>④総合的な学習の時間 「“おのみち”フェア」 修学旅行を通して、首都東京について見聞を広め、きまりを守り、協力して責任を果たすなど集団や社会の一員としての自主的、実践的な態度を身に付けさせる。</p> 	<p>⑤道徳の時間 郷土の一員として4-(8) 「アップルロード作戦」 郷土の一員であることの自覚を深め、郷土のために尽くそうとする道徳的実践意欲を育てる。</p>		<p>3 精一杯声を出したらお客様が足を止めてくれた。</p> <p>4 東京のお客様からの「頑張ってるね」が嬉しかった。</p> <p>5 東京で尾道出身の方と接してみて、初めて郷土“おのみち”の本当の大切さを実感したよ。</p> 
3月				<p>6 郷土“おのみち”の一員として、自分も何かしたいな。自分たちで何か“おのみち”のためにできることはないかな。</p> 
<p>○尾道の文化や伝統に触れ、多くの人とかかわり、郷土“おのみち”の一員としての自覚を持つ。</p> <p>○郷土“おのみち”を愛し大切に、自分自身が郷土に対して何をすべきか、何ができるかを考え、行動する。</p>				

〔実践のキーワード〕 郷土愛、かかわり、生徒指導の三機能(住居・保健・地域人間関係)、キャリア教育

## 「郷土を愛する心」をはぐくむ道徳学習プログラム（総合単元的な道徳学習）の活用によって

### 1. 生徒の実態

今日的な教育課題である家庭や地域の教育力の低下が顕著であり、規範意識・コミュニケーション能力、基礎的・基本的な生活習慣や学力が十分身に付いておらず、そのため自分や郷土に自信や誇りが持てずにいる生徒が多い。

### 2. 学習プログラム構想上の工夫

本校のめざす学校像は「感動ある学びの場」である。この学習プログラムは、第2学年で行う修学旅行を、道徳の時間を要とした各教科等との有機的な関連を図った「総合単元的な道徳学習」として捉え、構想・実践したものである。特に、「ねらいの明確化」（下図参照）を図り、キャリア教育の観点から市、教育委員会、観光土産品協会、尾道サポーターの会など「多くの人とのかかわり体験」を重視する工夫をした。

図1 学習のねらい

道徳	読み物資料や尾道の観光物産展（「芸術・文化のまち“おのみち”フェア」）での体験を通して、郷土に対する認識を深め、郷土“おのみち”を愛する心をはぐくむ。
各教科	国語（社会生活に必要な手紙）、社会（日本の諸地域・身近な地域）、数学（資料の活用）、美術（多くの人に伝えるための表現の構想）、技術（材料と加工・情報）など。
総合	尾道の観光物産展を企画・開催することを通して、郷土意識を醸成し、各教科等で身に付けた知識や技能等を活用し、社会人として生き抜くための資質・能力を育てる。
協働	修学旅行を通して、首都東京について見聞を広め、きまりを守り、協力して責任を果たすなど集団や社会の一員としての自主的、実践的な態度を身に付けさせる。

### 3. 道徳の時間の工夫

「芸術・文化のまち“おのみち”フェア」の中で感じたことや考えたことを道徳の時間の発問や話し合いに生かし、指導の場をつなげ、それぞれの指導相互の効果を高めた。それにより、生徒の学習意欲、道徳性を向上させた。

### 4. 生徒の反応

図2 生徒の意識の変化（変容）

初期段階	①今尾道に住んでいるし、「郷土“おのみち”」と言われてもピンと来ない。 ②（インターネットなどで）調べてみると、尾道って、色んな特産品があるのだな。
形成段階 (概)	③自分たちが精一杯声を出し、初めてお客様が足を止めてくださった時、本当に嬉しかった。 ④東京のお客様からの「頑張ってるね」が嬉しかった。 ⑤離れてみて初めて郷土“おのみち”の本当の大切さを実感した。
発展段階	⑥郷土“おのみち”の一員として、自分も何かしたい。自分たちで“おのみち”のために何かやってみたい。

### 5. 成果と課題

- 校長の明確な方針の下、学年主任や道徳教育推進教師が中心となり、生徒の実態を踏まえ、学年として組織的・計画的な指導ができた。
- 相互の学びを生徒が道徳性をはぐくむ総合的・横断的な学びの場として捉え、より豊かで心に響く道徳教育を推進できた。
- 生徒指導の三機能を生かし、生徒・教職員ともに、達成感、感動を味わえた。高まった郷土意識から、次の自分たちの行動へと発展させて考えられる生徒も多く出てきた。
- △他の教育活動（体育大会・芸術発表会など）でも、「道徳の時間」を要とした道徳学習プログラムを組織的に開発・発信していく。